12月号

ステパノだより

No.249

今月の聖句

『その光は、まことの光で、世に来て
すべての人を照らすのである。』

ヨハネによる福音書　第1章9節

◎12月の予定

2日(水)～23日(水) 時間割変更期間
3日(木) 歯科検診（小・中）
10日(木) 耳鼻科検診（小・中）
17日(木) 教務委員会
18日(金) クリスマス礼拝・クリスマス祝会
22日(火) 給食終了
23日(水) 2学期終業礼拝・教職員協議会
25日(金) 降誕日

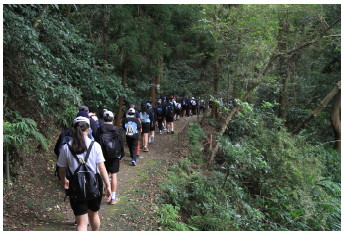
◎1月の予定

6日(水) 教務委員会・教職員協議会
7日(木) 3学期始業礼拝・聖書教室
8日(金) 給食開始
7日(木)・8日(金)
入学(小)・転入学願書受付（小・中）
12日(火)～14日(木) 体験学習（中）
13日(水)・14日(木) 入学願書受付（中）
15日(金) 小学校入学考査・自宅学習日（小）

今年も　児童・生徒
一人ひとりに　手作り
アドベントカレンダーを
いただきました。

十月二十八日(水)～十月三十日(金)
中学三年生は北陸方面へ、小学六年生は
京都・奈良へ二泊三日の修学旅行に行っ
てきました。
ほかの学年は、
それぞれ校外学習
を実施しました。

中学校



小学校

◎今月の行事から

○クリスマス礼拝　12月18日（金）

今年は、新型コロナウイルス対策も踏まえて礼拝をおささげします。いつもと形は違いますが、子どもたちも教職員もみんなでイエス様のご降誕をお祝いします。

○クリスマス祝会　12月18日（金）

今年は、児童・生徒全員で劇をすることを避け計画しました。

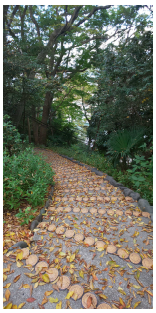
イエス様が世を照らす光であることから、「光」をテーマにして聖劇や装飾を準備していきます。聖劇は中学生の担当で、小学1・2年生の聖歌と合わせて事前に撮影します。中学生は、脚本、役者、撮影、衣装、大道具などの縦割り係に分かれ、皆でつくりあげていきます。

撮影した動画は、クリスマス礼拝のあと各クラスでシェアし、クリスマスのお祝いをします。

小学3～6年生は、クリスマスの装飾をします。アイディアを出しながらそれぞれ担当した校内を飾っていきます。

○2学期終業礼拝　12月23日（水）

今学期も、ご協力ありがとうございました。



いやなことを忘れるには

学園長　小　川　正　夫

「優しい心を育む聖ステパノ学園」という言葉は多くの人たちによく知られています。だれもが、友達に対しては勿論、悩んでいる人、困っている人たちに心を向け、思いやる優しい心をもっているのを感じます。

しかし、子ども達は自分なりに、気持ちを許して安心できる人に対しては様々な悩みや怒りの感情を表現し、いつも子どもらしく明るく伸びやかで、穏やかな平和な気持ちばかりではなく、傷ついていることもあります。

大人の社会でも、人との出会いでは、お互い良いところを見せていて幸せそうであっても不安や怒り、悩みや悲しみを胸に秘めていることもありますし、日常でも人間関係や、処遇、置かれている環境に不満や憤りを感じ、感情を曇らせていることがあります。現実が自分自身にとって受け入れ難いと感じるときには傷つき、多くの場合、責任を加害者と感じる相手に押し付けたくなります。

このような心の動きを良くないと言っているのではありません。むしろ誰もが経験するかもしれないことですが、自分の感情を善悪や有利性で判断するよりも、そのままの自分の心の動きを温かく受け入れ、そう思うこともあるかなと考えると、傷つき悩み、被害意識をひきずらないで、そういう「考え」方をする人もいるんだと考えれば、同じ感情を繰り返して悩むことが少なくなります。

現実や過去を変えることは難しく、自分の思い通りに相手を変えることはできなければ、自分の気持ちに対して思いやりの気持ちを向け、そこから前向きな気持ちを取り戻す力を蓄え、前に向かう姿勢が大切です。

私達日本人の多くは、道徳的な善悪で心の動きを自己批判的に考えたり、自己犠牲的に耐えることを美徳と考えたりする傾向がありますが、そうではなく、こだわりや偏りを取り除き、とらわれすぎずに自分の心の動きを温かく受け止めることが大切です。

このような考え方をセルフ・コンパッションといい、クリスティーン・ネフというアメリカの心理学者が世界に向けて提唱している考えを本で読んだことがあります。

キリスト教の教えとは少し違い、違和感があるかもしれませんが、ネフ博士はこのようにも提唱しています。

一人きりになったとき、先ず、自分が尊敬している人、心から大切だと思っている人を確りと目の前に思い浮かべ強く念じながら、「あなたが安全でありますように。」「あなたが幸せでありますように。」「あなたが健康でありますように。」「あなたが安らかに暮らせますように。」と繰り返して心の中で唱えてみます。そのあとで、自分自身の姿を確りと意識し、心に念じて、同じ思い、同じ願いを自分自身に向けて、同じ言葉で自分を慈しむような気持ちで声を出さずに心の中で繰り返してみると良いようです。

「私が安全でありますように。」「私が幸せでありますように。」「私が健康でありますように。」「私が安らかに暮らせますように。」という優しい気持ちを自分にも向けてみることが大事だといいます。

最初は悩みからくる感情や思考に気づくだけであっても、次第にその背景に気づくことができるし、乗り超えられるかもしれません。

そうすると、物事を現在の感情や思考で善か悪か、有益かどうかで判断することがなく、過去の生活経験や傷ついた思いにこだわらずに、ありのままの自分を受け入れることができるようになるという考えです。このような考え方をマインドフルネスと呼んでいます。

勿論何もせずありのままの現状でよいという意味ではありません。過去は変えることはできませんが、明日は努力によって変えられるという信念を持つことが大切なのです。

悩みや悲しみ、苦しみや怒り、傷ついた心の原因を分析していても、思いは繰り返し沸き上がり、被害意識は顕在化し何度も沸き上がり、私達をいらだたせますし、思い通りにいかない自分を他人と比較して、悩んだり、孤独感を持ったりすることがなく、他人の言葉に対しても、そういう「考え」もあるしこういう「考え」もある、湧き出してくる様々な感情に対しても、ある人の一つの「考え」方なのだと自分に言い聞かせるようにすると良いようです。

目の中の『丸太』

中学校教頭（統括）　佐藤　紀明

「あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。兄弟に向かって、あなたの目からおが屑を取らせてくださいと、どうして言えようか。自分の目には丸太があるではないか。偽善者よ。まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からおが屑を取り除くことができる。」（マタイによる福音書第７章３～５節）

挨拶できない人が、「挨拶をしましょう」と言ったり、話を聞いていない人が、「話を聞きましょう」と言ったり、自分はできていないのに、他人には注意したりする人がいます。

イエス様は、私達が気になる他人の欠点や悪行のことを『目の中のおが屑』にたとえ、一方で、私達自身の目には『丸太』があると言われます。隣人の欠点や落ち度が気になり、人を裁く思いに駆られる時、先ずは自分のことを考えるようにと言われています。この聖句の前に「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである。」という一文があります。『裁く』とは、あたかも自分がそのことを全て知っていると思い込んでしまうこと、十分知らないのに自分の判断は正しいと思い込んでしまうことです。そして人を『裁く』ことが、私達の人間関係を壊しています。

『丸太』の存在が妨げとなり、裁いている人自身はしっかりと見ている、よく分かっていると思っているものの、実は、真実や真相や実相が隠れてしまっていて見えなくなっているということが分かります。裁いている人には、外面的なほんの僅かな一部分だけしか実は見えていないのです。

ここで、目の中の丸太とは何でしょうか。それは自分を中心とする『善悪の尺度』と言えるでしょう。「私はこう思う」という自分の価値観、「私はこうだ」という自分の基準、「私はこうやってきた」という自分の経験など、知らず知らずのうちに身についてしまった考え方や基準で人を判断してしまっています。自分中心の考え方が物事を正しく見て判断することをできなくしているのだと思います。

人は年齢に応じて、当然それに相応しい考え方や対応ができるはずと思い込んでしまいます。けれども、心というのは体と同じように順調に成長しているとは限りません。私達は、体の栄養には心がけても、心の栄養に気を配らないことが多いと思います。その結果、心が十分に育っていないのです。それなのに、私達は年相応の精神年齢であるのが当然と思い込み、そういう目の中の『丸太』で人を見てしまい、期待通りでない相手を裁くのです。

私達は、先ず自分の目の中の『丸太』を取り除き、互いのありのままの姿を正しく認識することが大切です。人をあるがままに受け止めることが、良い人間関係を築けます。

私には、今自分が欠けているところ、足りないところを適切にアドバイスしてくれる人がいます。私は、その人に出会えて本当に良かったと思います。世間の常識を教えてくれ、私のより良い成長、飛躍のために、言いにくいことをズバッと指摘してくれます。ただ、指摘するだけでなく、こうすると良いという解決法も助言してくれます。ここまでは同じようにしてくれる人がいるかも知れません。ただ、その人は上から目線ではなく、いつも「そう言う私もそうありたいと願っている」と自分の目の中にある『丸太』の存在を認め、取り除く努力をしています。愛をもって私を一番に考えて接してくれて、感謝しています。

この世に『完璧な人』など一人もいません。私も毎日、間違い、失敗ばかりです。しかし、相手を正すために指摘しなければならない時もあります。自分の目の中の『丸太』を自覚して、愛をもって言うことを意識したいです。

言葉かけの後ろに愛があるか無いか、相手が自分のことを思って言ってくれているのか、愛を感じることができるかどうかが大切です。

以前、礼拝のお話で「自分に甘く、他人に厳しい人は少なくありません。しかし、先ずは自分自身に目を向けてください。その時、自分が何をするべきか気づくでしょう。聖書を読むことは自分自身と真剣に向き合うことです。聖書を開き御言葉に耳を傾けてください。」とありました。『丸太』を取り除くため、しっかりと御言葉に耳を傾けていきたいです。

降臨節から降誕日へ

聖書科教諭　咲間　直人

降臨節（アドベント）に入り、イエス様のご降誕を待ち望む期節になりました。毎年、降臨節になると礼拝の中で児童・生徒に降誕日（クリスマス）までの過ごし方について話をしています。降誕日はイエス様の誕生日ではなく、イエス様のご降誕をお祝いする日として定められたものです。現在は中々全員が集まって話をする、聞く、ということが難しい状況が続いています。そこで、今回はこの場を借りて降臨節と降誕日の出来事について少しお話をさせていただきたいと思います。

人々は遥か昔から神様が約束された救い主の誕生を心待ちにしていました。しかし、その時はなかなか訪れません。救い主という希望の光を待ち望みながら、その時を迎えることなく多くの方が天に召されました。そんな中、当時ローマ帝国の支配を受けていたベツレヘムの町でイエス様はお生まれになります。その場所は人が寝泊まりする宿屋ではなく、家畜小屋であり、生まれたばかりのイエス様が寝かされたのは飼い葉おけでした。一般的に見ればみすぼらしく、なんと恵まれない子だと思われるかもしれません。ですが、その場には困難な中にあっても諦めずに救い主の誕生という希望を待ち望んでいた人々が集まってきます。ご降誕に立ち会った人々にとって、この出来事は何よりも神聖で、喜びに満ちた瞬間だったに違いありません。降誕日はその喜びを分かち合い、神様が私達のことを愛し、その愛ゆえにイエス様という贈りものを与えてくださったことに感謝する日です。

聖ステパノ学園では毎月ごとに学校全体の生活努力目標が決まっています。降臨節にあたる十二月の目標は「静かな心で生活しましょう」です。馴染みのあるクリスマスという言い方をしますが、クリスマスと言えば、世間一般的に華やかなで賑やかなイメージが強いです。実際、クリスマスが近づくと「メリークリスマス」という言葉がテレビなどでも飛び交います。このメリーという単語には、「愉快な」、「陽気な」、「浮き浮きした」という意味があります。そのような日常と比べると、「静かな心で生活しましょう」という目標は、真逆のような印象を受けるかと思います。ですが、この静かな心で生活することには大切な意味があります。

当時、見通しの立たない不安と厳しい暮らしの中にあって、希望を切実に待ち望んでいたイスラエルの人々の生き方、それは現代に生き、イエス様のご降誕を既に知っている私たちにも求められる姿勢です。お祭り騒ぎをするためにクリスマスを待ち望むのではありません。降臨節は、聖書で、あるいは聖書では語られてはいない当時の人々の切実な思いを現代の私たちが再体験し共感して、その待望する気持ちと神様の約束が現実のものとなる喜びの気持ちをクリスマスまで大事に育む時です。当時に思いを寄せれば寄せるほど、心静かに、でもその心の内では、イエス様のご降誕の事実を知る者として、日々喜びを大きく育てていってほしいと思います。その過程で、思い思いに飾り付けをするなどの準備をしていけば、自然とお祝いしようとする気持ちも高まっていきます。

クリスマスにちなんだ物語は世界中にありますが、その多くが心温まるものばかりです。希望と幸せに満ち溢れています。それはイエス様がご降誕されたその出来事自体が誰もが幸せになるための希望の光だったからではないでしょうか。隣人を愛すること、受けるよりも与えること、どれも大切なイエス様の教えです。だからこそ、クリスマスを迎える前にその教えに倣い、自分をかえりみつつ周囲の人々に心を寄せ、支え合うことを意識する、それも大切なことだと思います。

大勢の人が一緒の場に集ってお祝いすることが難しい現状は残念なことではありますが、クリスマスの喜びやお祝いをする意味は何も変わりません。むしろ今、困難な状況にあるからこそ、心静かに喜びを育み、他者を思いやって過ごしながら、待ち望んでいたクリスマスを迎えた時には、「クリスマスおめでとうございます」と互いに言葉を交わして、身近な人達と一緒にイエス様のご降誕をお祝いできればと思います。

やっと行けた遠足代わりの「みかん狩り」

教諭　中村　弘之

校外学習が、十月になってやっと解禁された。

それでも、全校遠足はとりやめになっていたので、十月二十九日に一、二年生合同で、大磯町内にある「みかん山」に出かけることにした。そこで、自然を満喫し、みかん狩りをするのだ。十分ほど乗車する公共バス移動も、子どもたちの学びとなるはずだ。

この「みかん山」は、大磯運動公園の近くで大磯丘陵の中腹に位置する。私が委託されて管理している。

私は、このあたりの地場産業である漁業とみかん栽培を子ども達に見せたいと思っていた。それは、まず身近な事から学ぶのが一番興味を持ちやすく、見学などにも行きやすい、という利点からだけではない。マハトマ・ガンジーの「教育論」にもあるように、**現代教育を受けた子どもは、都会に出て事務的な仕事をしたいという思考を知らず知らずのうちに植え付けられる**ので、まずは地域のことをしっかり学ぶことが必要だ、と感じているからだ。たとえば、理科で自然について学ぶ時、美しい外国の自然だけを教えれば、やがて子ども達はそこへ行ってしまう。

そして、一次産業で働く人が激減している。最近は、コロナウイルスにより地方に住むことが見直されたり、退職後に農的生活をする人が増えたりして多少潮目が変わった感はあるが、都市集中は続いている。

本当に自分らしく幸せに生きる、自由に生きるというのはどういうことだろうか。都会に出てオフィスワークすることだけではないだろう。第一次産業や職人としての働きは貴重だし、やりがいもあるはずだ。今住んでいる地域に愛着を感じて、周辺の大人たちの仕事に興味を持っていくためには、地元の産業を学ぶことが大事だ。「こんな田舎はつまらない。早く都会に出よう。」という従来の若者志向から今の子どもたちを解放したい。

そんな考え方から地元をよく見て学ぶ学習を大切にしてきた。みかん山の所有者で見学させてくれそうなところを探したのだがなかなか見つからなかった。

そんな時、人手が無くて世話しきれない「みかん山」があるからやってくれないか、と声をかけてくれる人がいて、渡りに船、とばかりに借りたのだ。

当初は荒れ放題で、斜面に二段ある数十本のみかんの木は、上段、下段から茂る雑木のトンネルに埋もれていた。現在は、整備してなんとかそれらしくなっている。

さて、一年生は、はじめての校外学習に向けてワクワクドキドキしていた。この言葉通り、楽しみと不安で、少し前から興奮気味だった。準備としては、「間を開けないで、列になって歩く」ことを練習した。校内での移動や、帰りに校門まで歩くときには、すぐに間が開いたり、列が乱れたりして、長く歩けるか心配した。並び方を変えたり、教員の配置に工夫を凝らしたりして、まとまって歩けるようになっていた。

当日は、天候に恵まれた。暑くもなく、寒くも無く。公共バスでの移動時は、『短い時間なので話さない』と約束していたのだが、一、二年生とも本当にシーンとした状態で乗ることができた。いよいよみかん山に着くと、みかんのとりかたを聞いて、さっそくみかん狩り。食べ放題・・・とはいえ、すぐにおなかがいっぱいになるので、いろいろなところでとって、友達同士分け合って食べるようにした。はじめは、草の種がつくことを嫌ったり、虫を怖がったり、どこでとっていいのかウロウロしていたが、すぐに慣れて、木によじ登る子も出て来た。家族分のお土産もとって帰ることができた。

自分が住んでいる場所に興味を広げていくような、地に足がついた人に育ってほしい。

【小学校】古都京都・奈良を巡った6年生たちの三日間です。この感動と楽しい思い出は、きっと彼らの一生の思い出となることでしょう。

【一日目】

今日から修学旅行が始まりました。初めてなのでとても緊張しました。行きの新幹線がものすごく速かったです。京都に着いたら、お昼を食べて色々見学しました。奈良では、特に鹿にせんべいをあげるのが楽しかったです。鹿が食べているところがかわいかったです。そして、旅館に行ったら、部屋はそんなに広くないけど、とても居心地が良かったです。カメラを出して色々と写真を見なおしました。今日はとても楽しかったです。明日もおもいっきり楽しみたいと思います。（ＳＳ）

今日は修学旅行に行きます。奈良で最初は色々な像を見て、次は興福寺中金堂に行きました。中には入れなかったけど、きれいだと思いました。次は東大寺の方に行きました。中の仏像は、ものすごく大きかったです。最後は奈良公園で鹿に会いました。鹿せんべいをもらうと、一気に鹿が集まりました。とてもすばやくて怖かったけど、もっと遊びたかったです。（ＫＨ）

【二日目】

午前中からバスに乗り、色々なところに行きました。湯どうふを食べたりしました。おなかいっぱいになりました。二条城では、天井の模様が色々あってびっくりしました。南禅寺では、三門の急な階段をのぼりました。景色がすごくきれいでしたが、降りるのが怖かったです。陶芸体験では、コップを作りました。その後おみやげを買いました。その後、清水寺の見学をして、この日がおわりました。（ＯＹ）

今日は二条城と北野天満宮、南禅寺と清水寺に行き、その間に陶芸体験とお土産屋さんに行きました。二条城の唐門の上にトラやチョウ、竜のもようなどがありました。中に入るとキンピカでトラの絵のふすまもありました。北野天満宮には「なで牛」があって、いっぱいなでました。ごはんもすごかったです。順正の湯どうふは、鍋の中からすくってタレにつけて食べました。おいしかったです。南禅寺の三門にのぼったら、高すぎてビックリしました。その後「陶芸体験」をしました。人生で一度はやってみたかったので出来てうれしかったです。その後はお土産を買って帰りました。足は疲れたけど、とっても楽しかったです。（ＫＳ）

【三日目】

今日はもう家に帰ってしまう日。楽しかった二日が、もうあっというまに過ぎてしまったのが悔しいです。今日の朝は、ご飯を食べて宿とはお別れ。（悲しい。ちょっと夜コワかったけど・・・）。そしてトロッコ電車に乗って嵐山に向かいました。竹林を通って、天龍寺に向かいました。（サルに会えなくて残念）。黄ダルマと赤ダルマを見ることができました。そして、お昼ご飯を食べて大磯に帰りました。（ＨＲ）

今日は嵐山と天龍寺を見学して、トロッコ電車に乗りました。天龍寺の庭は迷路みたいでした。トロッコ電車は景色がすごくきれいでした。川も森もどちらもきれいで、目がかがやきました。嵐山のレストランではステーキを食べました。とってもおいしかったです。その後お土産を買いました。今日で最終日だったので、帰りたくありませんでした。いっそのこと新幹線が止まって欲しいと思いました。なぜかというと、このメンバーとはもう一緒に行くことができないからです。でも、このメンバーで行けたからこそ、楽しい修学旅行になったんだと思いました。（ＳＳ）

この三日間で、京都の色々なところに行きました。私は全部初めてだったので、すごく感動しました。鹿はすごく怖かったです。鹿せんべいをあげると、すごい数の鹿が押し寄せてきて、こわ～い・・・。

学校に帰ってきたら、先生達が「おかえり！」と言ってくれて本当に嬉しかったです。でも、疲れた～。そして楽しかった～。（ＡＭ）

【中学校】修学旅行先として初めて訪れた北陸での学びで、生徒たちにはまた一歩、心の成長があったようです。修学旅行報告文から抜粋です。

二〇二〇年十月二十八日、生徒十六人、先生四人が修学旅行に出発、三日間で北陸をまわる旅行であった。一日目は北陸新幹線に乗り新潟県の糸魚川駅で一度降り、フォッサマグナミュージアム・パークを見学するという行程だ。具体的に言うと、フォッサマグナ（大きな溝）の新しい地層と古い地層の境目を見るということになる。ちなみに僕らがみた境目のことを糸魚川ー静岡構造線という。写真ではフォッサマグナの境目は硬い岩のようにみえたが、実際に見て触ると粘土のように柔らかく触るとぼろっと崩れる程、やわらかかった。柔らかさの理由は、フォッサマグナの境目は断層で多くの地震がおこり、岩が何度もずれ、擦りあった為に岩が粘土状になってしまったからだと、学芸員の方が説明して下さった。これにはとても驚くと同時に断層の動き、地球の大地の動きを目の前でみることが出来、感心した。（ＧＳ）

新幹線に乗車しているときに忘れてはいけないのは、景色である。私が気づいたのは、北に行けば行くほど、田んぼが多くなるということ。日本海側はお米の生産が多いことは知っていたが、あらためて実感することができた。中には黄色い稲もあり、もうこんな季節なのかと思ってしまうこともあった。その他の自然も豊かで、雪に覆われた山もあった。バスに乗って高速道路に入ったときは、北側に日本海があり、南側に田んぼがあった。日本海の砂浜は神奈川と比べて白く、波は高かった。海のすぐ近くに田んぼがあるのは変わらなかった。（ＫＳ）

二日目は伝統工芸村と茶屋街、武家屋敷に21世紀美術館をバスで巡った。伝統工芸村では沈金体験をした。職人の方がおっしゃっていた、初めてだからうまいこといかないかもしれないが、それも味がでていいじゃないかという言葉を覚えている。国語で美しさは何たるかという話を読んだのでとてもしっくりきた。美しさとはそこにはじめからあるのではなく、我々がそこに見出すものであると。僕も色んなものに美しさや価値を見出せるような広い視野をもった大人になりたい、と思う。茶屋街と武家屋敷は忙しくてじっくり見ることはできなかったが、さながら時代劇のような街並みはとても素晴らしかった。ガイドさんの話を聞いた後、先生方からいただいた餞別で金箔ソフトクリームを食べた。先生方、ありがとうございます。ソフトクリームの金箔が風でちぎれそうでヒヤヒヤしたのもいい思い出である。（ＮＫ）

修学旅行の醍醐味は、夜の時間です。僕は今回、Ｋと同じ部屋になりました。くじ引きで決めたペアなので最初は心配でしたが、Ｋは賢く、面白く、とてもいい時間を一緒に過ごせました。今回Ｋと話していて一番楽しかったのは、お互いの相違点。Ｋは将来のことはまだ決まっていないそうです。僕の将来の夢は一応決まっています。Ｋの場合、賢いせいか、あとのことを考えすぎているのかもしれません。そもそも性格が１８０度違うため考え方も違います。今回楽しく過ごせたのは、気を使わせてしまったのかもしれません。でも、お互い少しでも仲良くなれたのかなと思います。この修学旅行を終えて話す回数が増えました。だから最初の「心配」という気持ちはなくなり、今では「一緒になれてよかったなぁ」と思います。（ＵＭ）

最終日の三日目、自分にとって金沢は今日帰るとは思えない程、親しい街になっていました。今日は兼六園、金沢城を回りました。兼六園は日本三大庭園に選ばれている庭園でとてもきれいなものでした。山の斜面に苔が生えていて木々の間からは太陽の光が差し込んでいて、同じ景色が無限に広がっていそうな幻想的な空間が印象的です。（ＡＳ）

これを書いているいま、あれは本当に夢だったのではないかと思うほど楽しい経験をさせてもらいました。実現してくださった先生方、そして現地で迎えてくれた方々に本当に感謝です。人生に一回しかない中学生での修学旅行。ここで作った思い出を忘れず、また経験したことを将来へつなげていきたいです。また個人でも訪れたいです。ありがとうございました。（ＯＲ）

前号に続き、小川学園長先生のお話です。

「美味しい料理は、美しい器で」とのお考えで、ホール、小中学校の各校舎、体育館棟・職員室、次々と環境整備にもご尽力下さいました。「多くの方が本校の教育の姿勢を評価し支援して下さるから得られた環境だという自覚と責任を持たなくては」と仰います。

「二十一世紀の始まりの時期に、新しいステパノを目指して発信していこうと考え、四十年間お世話になった地域社会に貢献できる第一歩として、海の見えるホールを作りました。それから二十年経ち、また次の新たな十年が始まります。慣例にとらわれず、子ども達が生き生きと、毎日いそいそと嬉しい気持ちで家を出て学校に向かえるように、ここへ来て良かったと思えるようにしたいですね。

運動会の全員リレーは、ひとつの象徴ですね。どの子にも皆、役割と責任があり、バトンは次に繋がれないといけない。強制はないけれど、皆が選ばれ、自分から参加し、拍手を受けて自分の役割を果たす、ということが大切だと思います。

多くの設備整備が叶ったことも、神様が大勢の人を動かして力を貸して下さっているからこそ、それを実感として子ども達に伝えています。子ども達も神様の存在を理屈ではなく、おぼろげにもわかってくるのではないかと願っています。

私が毎朝使うマグカップには、『今日があなたの夢の実現への第一歩なのだ』という意味の英文が書いてあるのですが、毎朝そう思って家を出ます。夢があって誠実に関わっていると助けが必ずあり、成果が出ます。それが協力、協働ですね。〈協〉という字は、十字架に力が三つで成り立っています。

愛とは、待つこと。待っていれば、子どもは心得て成長していきます。ひ孫を見ていると、子どもは自分でどんどんと成長していくものなのだと改めて感じます。根気よく対峙する母親には頭が下がりますね。お母様方は、私の娘や孫と年齢が近いので、伝えておきたい思いはＳＡの集いなどでお話しています。私自身も子どもを持って、親の気持ちや子どもの気持ちがより理解できるようになりました。これまで沢山の子ども達が大人になる過程を見てきて、待つことが教育で一番大切ではないか、と思えるのです」

「ＳＡの皆さんへ心からの感謝のプレゼント」という新しいフレンドシップ棟でお話を伺いました。内装は淡い桜色の柔らかな雰囲気、保護者同士の交流の時が待ち遠しく感じられます。今回改めて、先生の言葉の力を強く感じました。「言葉は心です」と穏やかなオーラでお話下さいましたが、大学時代には体育会の自転車競技で、有楽町から小田原まで百キロ以上も走られたそうです。鍛錬された体と奉仕の心を子ども達のために日々尽くして下さり、その恩恵の上に私達の幸福な学校生活があることを深く感謝する時間でした。

STEPHEN'S NEWS

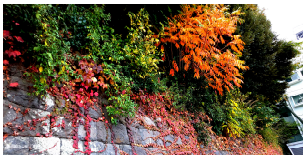
【表彰】

○実用英語技能検定　４級合格

中２　Ａ・Ｈ

【学園の様子】

秋も深まり、岩崎山の紅葉が色づいてきました。小一の子ども達にとっては、赤や黄色の落ち葉は宝物です。



【編集後記】

修学旅行も無事終わり、今年も暮れようとしています。コロナの影響で忙しない一年でしたが、クリスマスに向かうこの期節は静かに祈る一時を忘れないようにしたいです。

（え）

代表者　学園長　小川　正夫
発行者　聖ステパノ学園小学校・中学校
　　ステパノだより編集委員会
〒255-0003　神奈川県中郡大磯町大磯８６８
TEL　０４６３-６１-１２９８
FAX　０４６３-６１-９７３９
http://www.stephen-oiso.ed.jp
二〇二〇年十二月八日（火）発行　第249号